



# あきつ



第17号  
令和7年9月22日  
校長 田上 明男

## 授業参観ありがとうございました

先週、17日(水)は地域の方に、19日(金)は保護者の皆さんに学校に来ていただき、それぞれ授業公開、授業参観を行いました。お忙しい中に、ありがとうございました。

子どもたちも、張り切って、日頃のパフォーマンス以上のものを見せてくれたのではと思います。



### 【子育て支援ネットワークの方々への公開授業】

17日(水)の3時間目、秋津校区の子育て支援ネットワーク会議の総勢24名の方々が本校の授業参観にいられました。子育て支援ネットワークとは、「地域に住む親が安心して子育てできる環境づくりと子どもたちの健やかな成長を見守る支援を行う」という目的で設置されたものです。

当日は、低中高学年のそれぞれの学級に数名ずつ分かれて入れ、参観されました。子どもたちの中には、参観者の中に知り合いもいて、終始和やかな雰囲気。およそ1時間の間に、学校での子どもたちの様子をご覧いただきました。

そして翌日18日(木)に、まちづくりセンターで「子育て支援ネットワーク会議」が開かれました。その中で参観時の感想を伝えられました。いくつかご紹介すると…

「普段見せる姿とは違い、真面目に授業に取り組む姿が見られた。ただ鉛筆の握り方が気になった」

「それぞれに個性があり、先生がそれをまとめていかれるのは大変なことだ」

「(低学年は)騒々しくなるのではと思ったが、全然そうではなかった」

「低学年を見て就学前保育の点で考えさせられた」

「(特別支援学級には)一人で静かに学習できる環境があって、一人一人に合った指導がされていた」

「タブレットを使うなど、我々の小さい頃の授業とは様変わりしている」…

誰もが子どもたちの頑張りやよさを話されました。参観者の様々な視点の違いにより、私としても新たな発見がありました。特に鉛筆の握り方に関しては、昔は黒板の上に鉛筆の正しい握り方が示されていたなあと思いを思い出しました。今は、タブレットが出てきて、書く頻度も昔に比べると若干減ったのかも知れませんが、箸の握り方も含めて、頭の片隅に入れておかなければならない大切なことだと思いました。

### 【保護者の皆様への道徳の授業参観】

19日(金)の5時間目は2学期最初の授業参観でした。この日は、全学年「道徳」の授業を行いました。道徳が「特別な教科 道徳」になったのは、7年前のことになります。いじめやネット上のトラブルなどが深刻化しており、子どもたちが「生命の尊さ」「思いやり」「規範意識」について学ぶ必要性が高まりました。

それ以前にも道徳の授業自体はあったのですが、「教科」ではなく「領域」として扱われていて、「生活や体験を通して学ぶもの」という位置付けで、内容も教師の工夫に任される部分が多かったのです。(逆に言えば、教師次第で…ということです。)

それが教科になると、学習内容や教材が整備され、授業の質を全国で揃えられ、社会の課題にも対応できる。子どもたちが主体的に考え、他の授業と同じように互いに学び合いながら「よりよく生きる力」を育てられます。ただ道徳(道徳性)は、学校教育だけで育てられるようなものではありません。一人ひとりがどう生きるか(人生)にかかわる大切な学びです。

今回の授業参観では、学校が児童にどのような道徳性を育もうとしているのかをお伝えし、学校と家庭が連携し、一緒に道徳性を育てていきたいという思いがありました。

道徳の参観後には、よく「子どもの成長が見られました」、「先生や友だちと関わる様子が見られてよかった」、「自分自身も考えさせられた」など、子どもの学びの姿や道徳的価値に気づき、大人も学びを得る機会になったという声が聞かれますが、保護者の皆様の感想や思いはいかがでしたでしょうか。

これからも学校では、日々授業研究に努め、自分らしさや多様性の受容、協力や思いやり等のテーマを通して、子どもたちの多様な意見や成長した姿を見守り、よりよい人格形成に繋げていきます。

これからも学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら、子どもたちのよりよい成長に寄与できればと思います。今後ともよろしく願いいたします。